

医薬品販売制度改正に関するヒアリングへの回答

平成 16 年 6 月 8 日

所属 イイジマ薬局

管理薬剤師

名前 宮下 智美

1. 現在の販売体制について

- (1) 薬剤師の人数、それ以外の従業員の人数、及び勤務体制(シフト等)について。

薬剤師 10 名、それ以外の従業員なし

シフト制で常に薬剤師 2 名以上が常駐

開局時間外も薬剤師が常駐し、対応

2. 情報提供の内容物について

- (1) 一般用医薬品販売する際に、顧客からよく情報を求められる事項について。
(できるだけ具体的に。)

どの薬がいいのか 他薬(一般用医薬品、処方薬)との併用は大丈夫か

こういうアレルギーがあるが使えるか どのような副作用があるか

妊娠しているが大丈夫か 授乳は問題ないか など

- (2) 一般用医薬品を販売する際に、どのような内容の情報を提供しているかについて。例えば、必ず説明している事項や、口頭以外の手段で情報提供を行っている場合には、その具体的な方法。

効能効果、用法用量、副作用についての説明

合併症、併用薬、アレルギーの有無と服用可能かどうか

食事・生活での注意点やアドバイス(パンフレット・コピー等をお渡しする)

- (3) 一般用医薬品を販売する際に、何らかの情報提供や各種相談対応を行っている顧客の割合について。また、情報提供や各種相談対応を行った顧客に関し、これらに要する時間(顧客 1 人あたりの平均時間)について。

薬剤師が何らかの声をかける・・・100%

相談対応を行っている・・・約90%

時間は様々 3～5分、15～20分程が多い

3. 販売後の問い合わせや副作用に関する相談等に対する対応状況

(1) 1ヶ月当たりの問い合わせ件数について

約10～20件

(2) 問い合わせや相談の内容及びそれに対する対応について。

(例. 医師への受診勧告。医薬品についての詳細な説明、服薬指導等。)

今、こんな症状で、こんな薬を持っているが、服用していいか→薬を確認

服用しても良くなる→服用状況を確認・受診勧告

湿疹・かゆみがでた→症状の確認・受診勧告

4. 医薬品販売における安全上の問題点（添付文書や外箱表示の内容、販売業者の資質等）について

外箱の文字が小さすぎる 外箱・添付文書だけでなく中身（瓶等）にも表示が必要
小さな子供の誤飲を防ぐパッケージに

開封後の期限を明確にして欲しい

5. その他現行制度の問題点や改善すべき点等

医薬品は本来薬剤師がかかわって販売すべき

消費者の方々に、もっと薬剤師を利用していただきたい

医薬品副作用被害救済制度の国民への周知が不足している

イイジマ薬局 概要

上田市のほか近隣の1市3町3村を含む 長野県薬剤師会の上田支部に所属
[上田支部]

人口 約21万人

面積 約900平方キロメートル

イイジマ薬局

昭和52年開局

薬局40坪 (調剤室10坪)

従業員数10名 全員薬剤師

開局時間 平日7:00~21:00 日・祝日 9:00~19:30

定休日 1月1日

開局時間外の対応 薬剤師が24時間常駐

処方せん調剤

受付処方せん枚数：約4000枚/月

受付医療機関数：約130/月

一般用医薬品・医療雑貨・衛生用品・育児用品・介護用品・雑貨

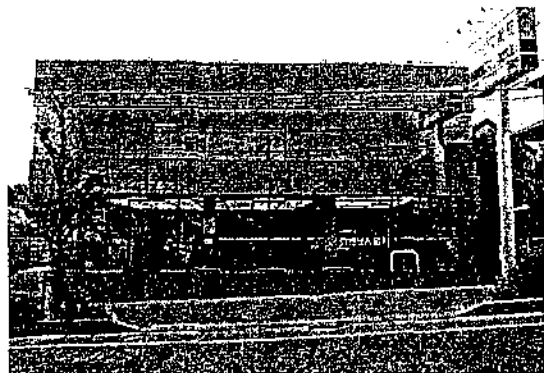
取り扱い品目 約6200種類

医療用医薬品 (処方薬) 約2500種類

一般用医薬品 約1200種類

その他の商品 約2500種類

イイジマ薬局外観



夜間窓口



バリアフリーのトイレ



一般用医薬品売り場

